

環境共生産地 i n f o ネット

環境にやさしい農業への理解向上へ！

収穫の秋を迎え、県内では水稻の収穫が進んでいます。

岩手県環境と共生する産地づくり運動推進協議会では、環境保全型農業の取り組みに対する消費者の理解を深めるため、9月13日に軽米町で雑穀の特別栽培の取り組みを見学する「環境にやさしい産地交流会」を開催しました。

二戸地方は、かつて馬の産地だった頃、雑穀の実人は人が食べ、わらは飼料としたため、丈の高い品種が栽培されるなど、暮らしと雑穀が密接に関わってきた地域です。現在では雑穀の機能性食品としての評価が高まる中で、消費者の健康志向に応える国内でも有数の産地となっています。

当日の産地交流会では、まず、日本一の雑穀産地である本県の雑穀研究を担っている県北農業研究所を視察し、雑穀の品種育成状況や雑穀栽培の機械化の研究成果に理解を深めて頂いた後に、二戸市金田一に移動し、二戸地域の「食の匠」が作った、へっちょこだんご、やなぎぼつとなど、雑穀料理を堪能しました。会場では、食の匠から料理の内容が紹介され、地域の伝統食や工夫を凝らした雑穀料理に、参加者からは、「雑穀がこのような料理になることを初めて知った。おいしかった。」との感想が寄せられました。



午後からは、軽米町長倉に会場を移して環境に配慮した雑穀生産ほ場の視察と生産者との意見交換会を開催しました。

長倉地区は、生産者 17 名が雑穀のエコファ

ーマーの認定を受け、中山間地域等直接支払交付金や農地・水・環境保全向上対策を活用しながら、地域全体で耕作放棄地の解消や農道の整備、生産環境の保全活動や雑穀の特別栽培（無農薬、無化学肥料）に取り組んでいる地域です。

ほ場の見学は、あいにくの雨の中となりましたが、参加者は「あわ」や「いなぎび」の特徴や料理の方法、栽培の苦労などを生産者から熱心に聞き、「雑穀畑を初めて見ました。」「無農薬、無化学肥料で作物を育てる苦労が解りました。」などの感想が寄せられました。



(説明をする生産者の内城さん)

その後、長倉生活改善センターに会場を移し、環境保全型農業を進めるために何が必要かについて、参加者、生産者双方で意見を交換しました。

参加者からは、

○消費者は、体にいいものを食べたいという気持ちがある。今日のような交流会に参加すると、化学肥料や農薬を使わないで作った農作物について、生産者の苦労を納得して購入できる。それを、知った私たちが周りに伝えていく必要があると感じた。

○今日の交流会で、エコファーマーのことやエコファーマーマークがあることを初めて知った。

エコファーマーの商品は、販売時に横断幕などで目立せるなどして、生産者の取り組みを消費者に積極的に伝えて欲しい。

また、生産者からは、

- 無農薬、無化学肥料での雑穀栽培は、除草剤を使わないことで手作業による除草に時間がかかるし、たい肥の散布のために、化学肥料と比べて10倍近くの時間がかかる。収量も少なくなるため、苦勞も多い。
- 生産者は付加価値をつけて売りたい、消費者はよいものを安く買いたいのが本音。
- 消費者は化学肥料や農薬を全く使わないのがよいと思っているが、生産者からすると最小限でも使わないと作るのが難しい。ただ、有機質肥料を使うと化学肥料だけよりも味がよくなるように思うので、これからも使っていこうと考えており、そういうことを消費者に分かって食べてもらいたい。



(意見を交わす参加者と長倉地区の生産者)

など、お互いに普段疑問に思っていることや、自らの意見を表明しつつ、それぞれの実状に理解を深めていただき、短い時間ながらも有意義な意見交換会となりました。

今回の交流会への参加者は、「雑穀」に興味があり、雑穀がどのように育っているか、どんな料理の仕方があるか知りたいというきっかけで参加した方が多く、交流会の始めには特別栽培やエコファーマーについて「知っている、聞いたことがある」方は半数足らずでした。

しかし、雑穀が栽培されているほ場を実際に見学し、生産者と直接話し合ったことで、環境保全型農業への理解が実感を持って深まり、その後のアンケートでは参加者のほとんどが「環境保全型農業に積極的に取り組む必要がある」と回答しています。

今後も一般の消費者が参加できる交流会やイベントなどを通じ、より多くの方々に情報を伝えていきます！



(軽米町の産地直売所「ミル・みるハウス」で販売される長倉産の雑穀)

シンポジウム開催のお知らせ

今年も、「いわて環境王国展」(11月7、8日アイーナで開催)において、環境にやさしい産地づくりに関する消費者と農業者の相互理解を深めることを目的にシンポジウムを開催します。基調講演には秋田県立大学生物資源科学部の宮入隆先生をお迎えし、「環境保全型農業と食の安全・安心」についてお話しを聞く予定です。また、生産者や消費者による安全安心の取組事例の発表を予定しています。

- 日時 平成21年11月8日(日) 10:00~12:00
- 場所 岩手県民情報交流センター「アイーナ」8階812研修室
- 内容 ・岩手県環境保全型農業優良事例表彰式
・基調講演 秋田県立大学生物資源科学部 助教 宮入 隆 氏
・食の安全・安心に関する取組の事例発表